

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 1日

事業所名 あさがおねっと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%		曜日によっては定員超過する日がある。その場合は、支援員配置を増やし対応している。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	職員が足りない時はヘルプを呼びかける	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	80%	20%		室内は基本的にバリアフリー化されているが、児童が通る箇所に柱があるため、クッション性のあるガードを設置して
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	20%	80%		新入社員はなかなか意見を述べる事ができないので意見を言える雰囲気づくりをする
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	定期的にモニタリングを実施	モニタリングにて保護者からのご要望をお聞きし、改善に努めている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	自己評価表の公表(年に1回)定期的にあさがい通信を発行	子どもたちの様子を出来る限り、保護者に伝えられるよう努めている
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		評価結果については真摯に受け止め、業務改善を進めるよう努力して
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	スキルアップを図る研修を前向きに受けて	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	60%	40%		達成点や課題点を話し合い、次の個別計画に繋げている
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	40%		標準化されたアセスメントツールの使用を進めている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		朝の時間に決める
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		朝の時間に決める
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	スケジュールを決めその流れに沿った	平日は課題設定の時間も短いので事前準備をしっかりとしなければならない
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	定期的に支援員で話し合い、個人に合った取り組みを考え実施している	年齢層が幅広いため、集団活動がとりにくいことがある。参加できるよう、工夫が必要である
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		子供の状況により参加しやすく楽しめる内容を午前中に話し合っている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	100%	0%	打合せという場面はないがその日の様子や児童について話し合う場面はある	時間の確保は難しいが、気づいた点や保護者からの情報などを共有できるようしている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80%	20%		時間の確保が難しく、不十分であり改善が必要である
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にモニタリングを実施し、見直しをしている	達成点や課題点を話し合い、次の個別計画に繋げている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	自己選択や自己決定を促すよう支援している	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	20%		基本的には児童発達支援管理責任者が参画している。もしくは、ケース担当者が参画する
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	80%	20%		学校ではどんな様子かなど確認している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	60%	40%		医療的ケアが必要な児童が少ないが、緊急時などを想定し、連絡体制の構築を進めている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%		支援の方向性を合わせるために、情報共有を重視している。必要に応じて、関係機関に連絡をするようにしている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		出来る限りの情報を提供しよう心掛けている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		外部からの助言や研修を増やしていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		コロナ禍で無くなっている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		現状報告や情報共有を行いたいので、機会があれば是非参加したい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		送迎時に出来る限り話をしているが、時間が不足している
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%		送迎時に相談等にのることで何に困っているかを知る
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		契約時などに説明している
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		相談があった際は、迅速に対応している
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%		コロナ禍が続いていたため、積極的な実施とはなっていない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	話を聞く時間を確保している	苦情に対して迅速に対応しているが、状況把握に時間がかかることがある
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		定期的にあさがお通信を発行している。また、月に2回ブログにて活動内容を報告している
	35	個人情報に十分注意している	80%	20%		個人情報に関わるものは、鍵付き書庫に保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		必要に応じて視覚支援を用いている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		感染拡大が長く続いたため、地域との交流が出来なかった

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		定期的に防犯訓練を実施した。また感染症対策については、保護者に配布物等で注意喚起を行った。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		定期的に訓練や学習を行った。また、防災センターに出向き、関心を深められるよう働きかけた
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		外部の講師をお呼びし、虐待防止研修を受けている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		身体拘束が必要な児童はいないが、その可能性がある児童については、しっかり個別支援計画書に記載していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	キッチンに個人ごとにわかりやすく提示している	医師の指示所ではないので、進めていきたい
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	事例が発生した場合は、ヒヤリハットを作成する	どのようなシチュエーションで起こったのか、共有時間が短いので時間の確保が必要